

# 事業報告

自 2022 年 4 月 1 日  
至 2023 年 3 月 31 日

一般社団法人 情報科学技術協会

# 2022 年度 事業報告

## 事業報告全般

### 全般

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が依然残りつつも、段階的に活動制限が緩和されるという社会状況の中で運営された。7月の理事会にて、執行部（会長・副会長・専務理事）の世代交代を図るとともに、新たに事務局長を迎え入れ、事務局業務のデジタル・トランスフォーメーションに着手するなど、これからの時代に対応した協会運営の体制の整備に着手した。財政面では、収入 34,367,178 円、支出 30,986,508 円で、3,380,670 円の黒字となった（2021 年度は、収入 36,082,244 円、支出 30,865,003 円、5,217,241 円の黒字）。

収入は昨年度比で約 170 万円の減少となった。この要因としては、会員数の減少のほか、新規の受託事業がなかったことが挙げられる。会員数は、ここ数年で大きく減少していたが、2021 年度末は 761、2022 年度末は 750 と、ある程度の下げ止まりが見える。

今後、協会の認知拡大、会員数増加に向けた施策を実施するため、関連分野の学協会とのコラボレーションに着手した。2022 年 12 月には、情報処理学会高齢社会デザイン研究会との連携イベントを、福岡県北九州市にて開催した。

新型コロナウイルス感染症に伴う活動制限が緩和されている状況をとらえ、協会へのエンゲージメント強化などを目的に、ハイブリッド型の会合を開始するとともに、対面での会合も一部再開した。

また、協会が開催する最大のイベントである INFOPRO が、2023 年 7 月で 20 周年を迎える機会をとらえ、記念大会としての専用サイトを設置した。協賛企業数は昨年度から若干増加することが見込まれている。

協会運営体制の刷新から日も浅く、新たな施策が結実するまでには至っていないものの、2023 年 1 月以降、新たに入会した会員数が前年同月に比べて増加するなど、試験的に実施している施策の効果が数字に表れている。一方で、Web サイト・SNS・動画などでの情報発信、会費のクレジットカード払いなど、会員層からのニーズの高度化に、事務局運営の体制を対応させていく必要が生じている。今後、会員数増加に向けた施策を継続するとともに、事務局運営体制を強化するため、事務局業務のデジタル・トランスフォーメーションに知見のある専門人材および外部事業者の支援を得ることなどが必要とされている。

## 2022 年度 役員及び担当

### 2022 年度 役員一覧 (50 音順)

役職	氏名	担当職務
理事	青柳 英治	試験実施、著作権
理事	岡 紀子	西日本・地域活動、シンポジウム
理事	岡田 芳幸	CBT 試験、広報・ホームページ
理事	岡安 渉子	試験実施
理事	清田 陽司	会長、運営部会
理事	澤田 大祐	研修、会員基盤強化、運営部会
理事	清水 美都子	シンポジウム、3i 研究会
理事	白井 瞭	西日本・地域活動、研修
理事	白須 結人	西日本・地域活動、会員基盤強化
理事	棚橋 佳子	副会長
理事	徳野 肇	PD、運営部会
理事	殿崎 正明	会誌
理事	林 和弘	副会長、運営部会
理事	原田 智子	試験実施、研修
理事	増田 豊	シンポジウム、CBT 試験
理事	松下 茂	広報・ホームページ、著作権、運営部会
理事	松田 真美	CBT 試験、広報・ホームページ、会員基盤強化
理事	南山 泰之	会誌、会員基盤強化
理事	宮澤 彰	標準化
理事	矢崎 美香	西日本・地域活動、広報・ホームページ
理事	山崎 久道	会誌、著作権
理事	山田 瑞穂	西日本・地域活動、試験実施
理事	山中 とも子	3i 研究会、運営部会
理事	吉野 敬子	専務理事、運営部会
監事	小田島 互	
監事	角田 裕之	

## 会員異動

種別	2021 年度末	入会	退会	増減	2022 年度末
維持会員	37	2	3	-1	36
特別会員	64	0	0	0	64
正会員	658	41	51	-10	648
準会員	2	1	1	0	2
合計	761	44	55	-11	750

## 社員総会

開催日: 2022 年 6 月 29 日

会場: JLA 会議室 4

議題:

1. 2021 年度事業報告および決算報告（審議）
2. 2022 年度事業計画および予算案（報告）
3. 2022～2024 年度役員選挙
4. その他

## 理事会

開催日: 2022 年 5 月 24 日

会場: Zoom

議題: 事業報告、決算報告、表彰者選考委員会・ISO 国内審議委員会 内規改訂ほか

開催日: 2022 年 7 月 20 日

会場: JLA 会議室及び Zoom

議題: 代表理事、会長、副会長及び専務理事の選出ほか

開催日: 2022 年 10 月 13 日

会場: INFOSTA 会議室及び Zoom

議題: 事務局長の承認、会誌関係規定類改正ほか

開催日: 2023 年 1 月 27 日

会場: JLA 研修室及び Zoom (会員公開理事会)  
議題: 2022 年度 7 月-12 月の INFOSTA 活動報告ほか

開催日: 2023 年 3 月 15 日  
会場: Zoom  
議題: 事業計画、予算、INFOSTA への寄付ほか

## 事業活動

刊行事業  
会誌編集委員会

2022 年度も安定した刊行(毎月 1 日発行)を達成することができている。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度もインフォプロの関心領域から様々な話題のトピックを取り上げることができた。近年の社会情勢・技術動向の変化を反映して「ヘルスリテラシーと医療情報(4月号)」「ウェルビーイングとインフォプロ(9月号)」「テレワークとサイバーセキュリティ(3月号)」をはじめとする多様なテーマを取り上げた。また「インフォプロの認定制度(6月号)」「検索技術者検定(11月号)」といった、読者の自己研鑽に直接寄与するテーマも多く取り上げた。

例年どおり、他の委員会と連携した企画を実施した。パテントドキュメンテーション委員会からは「特許調査を取り巻く技術の進展」(7月号)の企画検討、編集において全面的な協力を頂き、特集号を発行することができた。シンポジウム実行委員会からは「第 19 回情報プロフェッショナルシンポジウム」(12月号)特集号の発行に全面的な協力を頂いたほか、同シンポジウムの口頭発表者への投稿呼びかけを行って頂いた。一昨年度より試行している研修委員会とのタイアップも継続しており、研修委員会が開催するセミナーの講演録執筆、掲載の呼びかけを行って頂いた。その他、SIG 部会の活動報告執筆の呼びかけなども継続的に行っており、記事読者に有益な情報を届けるためにも、これらの連携企画については継続して実施したいと考えている。さらに本年度より、当協会が長年後援してきた TP&D フォーラムとの、会誌作成にかかる連携・協力を開始した(「整理技術・情報管理の世界(8月号)」)。これにより、普段より専門性・学術性の高い記事を掲載できている。

2021 年度より開始した J-STAGE Data の活用では、今年度も 1 件のデータ登録があった。

### 【特集】

年	号	特集タイトル
2022	4月号	ヘルスリテラシーと医療情報
2022	5月号	データの価値を創出するために
2022	6月号	インフォプロの認定制度
2022	7月号	特許調査を取り巻く技術の進展

2022	8月号	整理技術・情報管理の世界
2022	9月号	ウェルビーイングとインフォプロ
2022	10月号	統計データの活用
2022	11月号	検索技術者検定
2023	12月号	第19回情報プロフェッショナルシンポジウム
2023	1月号	学術情報流通のあり方
2023	2月号	学術分野におけるDXの概観
2023	3月号	テレワークとサイバーセキュリティ

#### 【その他】

新規連載として、「特許情報分析／解析／検索データベース」「実務者のための著作権お悩み相談室」の企画・検討を実施した。両連載については、2023年4月以降順次掲載される予定である。不定期連載である INFOSTA Forum は従前どおり掲載している。

特集及び連載以外の記事としては、会員からの投稿記事を8本、書評を9本掲載した。会員からの自主的な投稿を促進するため、会誌経営委員会と連携して2023年2月より非会員からの投稿を受け付け、及び査読基準の公開を実施した。書評数は堅調に推移している。

#### 【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2022-4-6	定例委員会	Web 会議
2	2022-5-11	定例委員会	Web 会議
3	2022-6-1	定例委員会	Web 会議
4	2022-7-6	定例委員会	Web 会議
5	2022-8-6	定例委員会・企画会議	Web 会議・日本図書館協会会館
6	2022-9-7	定例委員会	Web 会議
7	2022-10-5	定例委員会	Web 会議
8	2022-11-2	定例委員会	Web 会議
9	2022-12-7	定例委員会	Web 会議
10	2023-1-11	定例委員会	Web 会議
11	2023-2-4	定例委員会・企画会議	Web 会議・日本図書館協会会館
12	2023-3-1	定例委員会	Web 会議

#### 【委員会の体制等】

会誌編集委員会では会誌編集協力員(2023年3月現在5名)を置いており、特集企画、連載企画への参画のほか、電子メール、企画会議への参加等を通じてコメントをいただき、実務視点に捉われない多角的な情報の把握に努めている。

その他、会誌経営委員会には2名の委員が参画し、多様な視点から会誌の在り方等について検討を進めるとともに、会誌 Web サイトや規程類の改定、J-STAGE 上でのお勧め記事掲載及びアクセス解析、会誌作成の組織体制の検討といった面で緊密な連携のもと具体的な活動を行っている。

また、DXの観点では、定例委員会のWeb開催、企画会議のハイブリッド(対面&Web会議)開催が定着した。安定したインターネット環境の重要性や使用するツールのノウハウを継承していく必要がある。さらに、プロジェクト管理ツールBacklogを導入し、効率化、定型化、ノウハウの蓄積・継承の観点から、編集作業の改善に着手した。過去の対応事例やマニュアルを検索可能な状態で運用できるようルール整備を進めている。

## 会誌経営委員会

会誌経営委員会は、会誌編集委員会、事務局と連携して、会誌に関わる諸業務の健全な運営のための施策、記事構成に関する方針、読者増加に向けての施策、会誌投稿規定・執筆要領の策定と実施の監督をおこなう。また、会誌編集委員会に協力して記事の提案を行うほか、会誌ウェブサイトの更新に当たる。

2022年度は、以下の計画に基づいて事業を進めた。

### (1) 関係する他の委員会との連携の推進

2020年に整理した業務分掌や体制に基づき、引き続き会誌編集委員会と連携して業務を進めた。さらに、会誌事務局体制の変更に合わせ、会誌事業に関わる諸委員会との役割分担について再検討した。

### (2) 会誌記事の利用の促進

- ・非会員からの論文投稿受付について引き続き検討し、2023年2月に具体的な考え方と方法を整理した文書をウェブサイト上で公開した。
- ・会誌コンテンツがJ-STAGEに搭載される以前のデータを再確認し、データ整備を実施した。
- ・J-STAGE Data利用促進の取り組みとして、執筆者への利用案内文の作成やJSTからの要請によるメタデータ修正対応などを実施した。

### (3) 会誌の中長期的な位置づけ及び財政安定化の検討

協会の活動状況、会員構成、会誌への潜在的ニーズ等を把握するために、J-STAGEアクセス統計分析を実施した。分析結果は会誌経営委員会内での議論に提供したほか、要望に応じて他の委員会にも提供した。

### (4) 会誌記事に関する検討と企画

2021年度に引き続き、2017年～2018年にかけて実施された連載「オープンサイエンスのいま」をもとに、書籍として出版する計画を進めた。また、会誌編集委員会に協力して、次に掲げる連載記事の企画・提案を実施した。

連載「特許情報分析／解析／検索データベース」2023年4月～

連載「著作権にまつわる実務上の悩み」2023年6月～

(5) 実情に合わせた会誌投稿規定・執筆要領等の策定

上記(2)において整理した非会員からの論文投稿受付に対応して、会誌投稿規定・執筆要領の改訂およびガイドラインの策定を実施した。

(6) その他

・会誌コンテンツの更新に合わせ、協会ホームページの会誌ページ(J-STAGEを含む)の管理・更新を行った。

・2021年度に引き続き、「理事・監事の抱負」執筆依頼を理事会メンバーに依頼し、取りまとめを実施した。該当の記事は2022年11月号で公開されている。

・(1)で議論した会誌事業に関わる諸委員会との役割分担に基づき、会誌経営委員会の休会に関して議論した。

【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2022-7-26	1) 会誌発行部数の推移について 2) 会誌関係規定類の改訂について 3) 連載記事の企画について	Web 会議
2	2022-11-14	1) 連載記事の企画について 2) 「『情報の科学と技術』投稿原稿の査読・校閲の考え方」について 3) J-STAGE 記事認証フラグについて 4) 会誌関連委員会の体制について	Web 会議
3	2023-2-28	1) 会誌関連委員会の次年度体制について 2) J-STAGE Data の運用について 3) 2023 年度事業計画案の策定について	Web 会議

普及研修事業

研修委員会

【概要】

2022年度も、2021年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けたものの、蓄積したオンライン会議システム利用のノウハウを活用し、オンラインセミナーを複数回開催した。

INFOSTA との各委員会との連携強化にも努め、広報委員会との連携により、セミナー開催の様子をソーシャルメディアによりリアルタイム発信した。

前年度に引き続き、オンラインチケット販売サービス(Peatix)を活用し、事務局の事務負担を軽減するとともに、開催当日の飛び入り参加を可能にするなどのメリットを得た。



2023年度は行動制限が緩和され、現地開催が可能になることが想定されるが、オンラインならではの開催効果についても勘案し、より効果的かつ効率的なセミナー開催の在り方を検討していく予定である。

#### 【委員会開催状況】

以下の日程で開催した。

第1回 2022年4月28日、第2回 2022年6月13日、第3回 2022年8月29日

第4回 2022年10月24日、第5回 2022年12月19日、第6回 2023年2月27日（いずれもオンライン開催）

#### 【活動状況】

- ・ 2022.6.22 「インフォプロいちねんせい：プロをめざすスキルアップ」

講師：畔上 英樹氏（弁理士法人オンダ国際特許事務所・弁理士）

上野 京子氏（化学情報協会常務理事）

廣谷 映子氏（旭化成ファーマ株式会社医薬学術支援部）

オンライン開催

- ・ 2022.9.2 「リーダビリティ研究とその応用：ヘルスコミュニケーション向上のために」

講師：酒井 由紀子氏（帝京大学准教授）

オンライン開催

- ・ 2022.10.22-23 「サーチャージャー講座 21 —検索技術者検定2級対策—」

講師：岡 紀子 氏（佛教大学）

阿部 潤也 氏（東京歯科大学）

徳田 恵里 氏（紀伊國屋書店）

田中 邦英 氏（元 近畿大学）

オンライン開催

- ・ 2023.1.27 INFOSTA 会員限定 新春セミナー「リカレント教育とキャリアチェンジ」

講師：三沢 岳志氏（コインシデンシア知的財産事務所・弁理士）

オンサイト（日本図書館協会会館研修室）・オンライン開催

#### シンポジウム実行委員会

- (1) 委員会開催状況▼ INFOPRO2022 実行委員会（全て Zoom 開催。毎回 2 時間程度）

第1回 2021年11月24日

第2回 2021年12月22日

第3回 2022年2月3日

第4回 2022年3月3日

第5回 2022年4月18日

第6回 2022年5月11日

座談会 2022年7月21日 (Zoom 開催。2時間程度)

▼ INFOPRO2023 実行委員会 (全て Zoom 開催。2時間程度)

第1回 2021年11月16日

第2回 2021年12月8日

第3回 2023年1月11日

第4回 2023年2月2日

第5回 2023年3月2日

## (2) 2022年度活動状況

第19回情報プロフェッショナルシンポジウム (INFOPRO2022) を、7月7日、8日の二日間にわたり開催した。開催の形式は COVID-19 の感染拡大の影響を受け、Zoom によるオンライン開催 (正式参加は有料、聴講のみは無料) とした。メインテーマに、「学びと人材育成のニューノーマル」を掲げ、組織や人材育成の在り方と学びについて再考を促す機会とした。主に大学で研究力の分析、知財の管理・活用に関わるリサーチ・アドミニストレーター (URA) によるセッションを追加し、研究に関わる企業とアカデミックの接点を提供する場としても機能した。

### ● 特別講演 (オンライン開催) 2題

1. 学びのイノベーション-個人が問われるダイバーシティ時代
2. Infopro in the future-インフォプロの終身成長に向けて

### ● OUG ライフサイエンス分科会公開講座 (オンライン開催)

テーマ: 「医中誌 Web バージョンアップ」ゆるふわ検索の検証

### ● 口頭発表 (18件)

### ● プロダクト・レビュー (6社) (オンライン開催)

### ● 参加登録者数 337名

シンポジウム開催後に、会誌への開催報告の企画を実行委員会で検討し、委員会メンバーを中心にした INFOSTA 関係者と参加者が分担執筆したコンテンツを Vol.72 No.12 に特集として掲載した。

予稿は J-STAGE に掲載した。

## (5) INFOPRO2023 に向けての活動

第20回となる INFOPRO2023 も、基本的にはオンラインを中心としたイベントとして 2023年7月6日 (木)、7月7日 (金) に zoom を使い開催する予定で準備中である。

メインテーマは、『インフォプロとサステイナビリティ』とする。トーク&トークでは

「INFOPRO の未来を考える(仮題)」をテーマにディスカッションを予定している。

1日目の終わりに交流会をリアル開催する予定である。

## 試験実施委員会

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止措置として、各委員会・分科会はいずれも Zoom によるオンライン開催となった。

### 1) 試験実施委員会

#### ① 委員会開催状況と主な議題：

第 209 回 (2022-04-13) CBT 化検討他

第 210 回 (2022-05-13) 合格者名会誌掲載検討、受験案内関連検討、CBT 化検討他

第 211 回 (2022-05-17) CBT 化検討他

第 212 回 (2022-06-08) CBT 化検討他

第 213 回 (2022-06-15) CBT 化検討他

第 214 回 (2022-07-26) 担当理事交代、CBT 化検討他

第 215 回 (2022-09-01) 2022 年度試験検討、試験の広報、CBT 化検討他

第 216 回 (2022-10-21) 試験の英文名称検討、2022 年度試験検討、CBT 化検討他

第 217 回 (2022-12-08) 2022 年度試験検討他

第 218 回 (2023-01-21) 2022 年度 1 級一次合否判定、2022 年度 1 級二次試験準備他

第 219 回 (2023-01-25) 2022 年度 2 級合否判定、合格者を祝う会、3 級試験検討他

第 220 回 (2023-02-13) 2022 年度 1 級二次合否判定、CBT 化検討他

第 221 回 (2023-03-06) CBT 化検討、3 級試験検討他

#### ② 活動状況

##### (1) 2022 年度検定試験実施状況報告

2022 年度の「検索技術者検定」試験は、1 級一次試験と 2 級が例年とほぼ同時期の 2022 年 11 月 27 日 (日) に札幌・東京・名古屋・大阪・福岡で、1 級二次試験は 2023 年 2 月 12 日 (日) にオンライン方式で実施した。3 級は 2022 年 8 月 1 日 (月) ～2023 年 1 月 31 日 (火) に全国 47 都道府県の約 200 会場から選択可能な J-Testing 試験センターで CBT 方式により実施した。

さらに、3 級については過去問の他に練習問題を作成し、ホームページにアップした。

2022 年度の総受験者数は 498 名で、2021 年度と比較すると約 100 名減少している。3 級は、2021 年度と同様に 2022 年 8 月 1 日 (月) から 2023 年 1 月 31 日 (火) まで 6 カ月間実施したが、受験者数は 2021 年度より 68 名 (試験期間内に、再受験が可能のため延べ人数) 減少した。

会誌への合格者への名前掲載について「載せない」を希望した人が 3 級は 36%、1 級、2 級を含めて個人名を出したくない人が増加している傾向である。

受験者数推移は以下の通りである。

年度	総受験者数	1 級	2 級	3 級
----	-------	-----	-----	-----

2020 年度	539 名	18 名	150 名	372 名
2021 年度	614 名	10 名	159 名	445 名
2022 年度	498 名	9 名	112 名	377 名

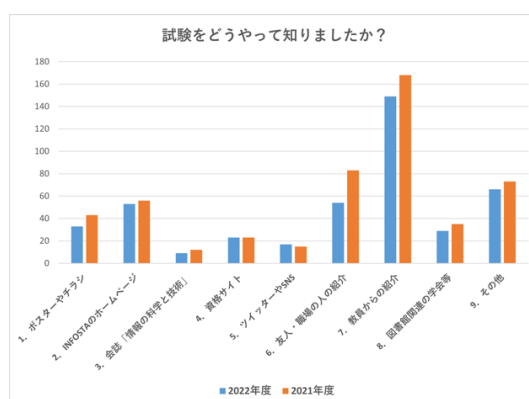
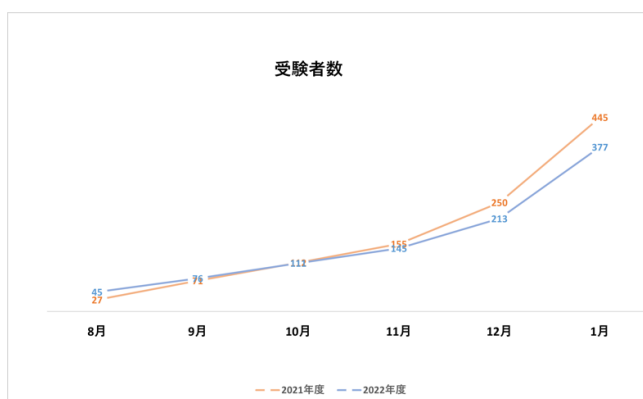
### 3 級試験 受験者分析

・2021 年度および 2022 年度の 2 年間の月別の受験者数から受験期間終了間近に駆け込み受験者が増える傾向が見える。(図 1)

・受験のきっかけは「教員からの紹介」「INFOSTA のホームページ」「友人・職場の人の紹介」が圧倒的に多い。(図 2)

・受験者の主な属性は「大学生」である。(前年度は「その他」に入っていたため、大学生のみの数値がわからなかった。)

・大学生の受験者は PR してくださる教員の在籍する大学の学生に限定されている傾向がある。受験者数の拡大は今後の課題である。



(図 1) 受験者数の推移 (2022 年 8 月-2023 年 1 月)

(図 2) 試験を知ったきっかけ

### (2) 広報関連

2022 年 10 月 22 日 (土)・23 日 (日) サーチャー講座 21 を実施した。(参加者 27 名。講義の録画配信はしない。) ホームページの見直しを行い、更新対応を継続している。

2022 年度も昨年度同様に、維持会員、特別会員、司書講習開講大学、大学の司書課程で特に情報検索の内容を主に担当している教員宛に、ポスター、受験案内、3 級チラシを送付した。また、2022 年度の図書館総合展でキャリア形成をテーマに動画配信し、その中でも検定試験の概要を紹介した。

### (3) 委員拡充方策の検討

作問委員、実施委員の増員方策の検討を継続している。

#### (4) 1級・2級 CBT 化の検討

既に CBT 化を実現した 3 級に続き、1 級と 2 級の CBT 化について、具体的な検討を行った。

#### (5) CBT 分科会関連

合格証の会場出力を 2021 年度に開始し、2022 年度も引き続き継続した。当初経費（システム構築料 20 万円）は 2021 年度のみで、2022 年度以降は発生しない。

#### (6) 委員会以外の活動

合格者を祝う会は、2023 年 3 月 10 日（金）に東京会場、3 月 11 日（土）に大阪会場で 3 年振りに対面で開催した。

対象は、2022 年度の試験合格者で東京・大阪会場合わせて 10 名の合格者が参加した。

## 2) CBT 分科会

### ① 委員会開催状況と主な議題

第 10 回（2022-05-10）会誌広告、検索検定チラシ、合格者を祝う会、広報、J-Testing システム関係

第 11 回（2022-06-24）「薬学図書館」紹介記事執筆、広報、J-Testing システム関連

第 12 回（2022-07-13）広報、受験案内、YouTube 動画、J-Testing システム関係

第 13 回（2022-10-12）「薬学図書館」紹介記事執筆、「JAPIC NEWS」紹介記事執筆、外部試験サイト関連、図書館総合展関連、イー・コミュニケーションズ打合せ対応、補償金関連、受験状況の確認

第 14 回（2022-12-06）図書館総合展関連、YouTube 動画、スケジュール確認、大学教員向け広報関連

第 15 回（2022-02-20）広報、3 級試験受験者データ分析、受験状況の確認、次年度試験関連

### ② 活動状況

広報関連：以下を実施した

- ・ 公式 YouTube チャンネルにて公開している 3 本の動画「試験勉強の仕方」「試験概要」「体験版」を更新
- ・ ウェブサイト、3 級の A4 チラシ更新
- ・ 広報委員会の協力のもと SNS（Twitter、Facebook）にて随時情報発信
- ・ 図書館総合展にてポスター展示（オンライン掲載）

その他、三役および事務局と連携し、申し込み状況の把握と対応の検討、問い合わせ対応、システムの設定変更、契約更新の手続きを行った。

その他委員会活動・プロジェクト

広報委員会

## ① 委員会開催状況

- 2022 年度第 1 回委員会 4 月 20 日（火）18:00～19:10
- 2022 年度第 2 回委員会 7 月 26 日（火）18:00～19:45
- 2022 年度第 3 回委員会 10 月 5 日（火）18:00～19:30
- 2022 年度第 4 回委員会 2 月 7 日（火）18:00～19:30

## ② 活動状況

- 協会の各活動をフォローアップするために主に Twitter と Facebook とで情報を発信した。
- また発信にあたっては、三役及び他の委員会の協力を得た。
- 委員会とは別に、2022 年 11 月 30 日に広報委員会委員長、ホームページ担当理事と新就任された事務局長との間でホームページおよび SNS 運用についての状況確認と今後の運営について意見交換を行なった。
- 全国図書館大会記録への広告を作成し掲載の手続きを行った。
- 紙媒体のリーフレット改訂を検討したが配布予定が当面ないことから当面は見送ることとした。
- 検索検定等の INFOSTA イベントを適宜 Twitter と Facebook で拡散した。
- Twitter および Facebook のフォロワー数は、それぞれ増加した。

## 西日本委員会

### ①委員会開催状況

2022-04-12：第 213 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）  
2022-06-17：第 214 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）  
2022-08-23：第 215 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）  
2022-10-21：第 216 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）  
2022-12-07：第 217 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）  
2023-02-21：第 218 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）

### ② 活動状況（理事会に報告すべき事項）

2021-10-22,23：サーチャー講座 21（研修委員会と協力して Zoom によるオンライン開催）  
2022-11-27：検索技術者検定試験実施にあたり、大阪会場の運営に協力  
2022-12-03：情報処理学会高齢社会デザイン研究会による「第 25 回高齢社会デザイン研究会」において、併催イベントとして、西日本委員会主催セミナー「少子高齢社会におけるビッグデータ活用を考える」を開催（会場：北九州学術研究都市学術情報センター 講師：大屋誠氏（ヤフー株式会社データソリューション事業本部パブリックエンゲージメント部部長））  
2022-12-16：見学会（こども本の森 中之島）参加者 6 名  
2023-03-11：検索技術者検定「合格を祝う会」（大阪 YMCA 会館）参加者 12 名

※サーチャージ講座 21 は新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催となり、例年実施していた大阪会場での開催は中止。

※例年行われている「人と情報をつなぐ西日本インフォプロ交流会」（旧じょいんと懇話会）は、新型コロナウイルスの感染状況もふまえ、開催方法も含めて継続検討中。

## 表彰者選考委員会

2023年3月31日、4月14日、および5月12日に第48回（2023年）表彰者選考委員会をオンライン（Zoom）で開催し、各賞の選考を行い、表彰文の作成を行った。また、研究者発表賞の該当がない場合、奨励賞（仮）等の賞を設ける規程を作成の検討を行った。

以下の各賞選考を、5月24日理事会にて承認の予定。

### ○情報業務功労賞

松田 真美 氏（特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会）

### ○教育・訓練功労賞

豊田 恭子 氏（北海学園大学）

### ○研究発表賞

該当者なし

### ○優秀機関賞

大宅壮一文庫

### ○協会事業功労賞

長田 孝治 氏（ロゴヴィスタ株式会社）

### ○名誉会員

小野寺 夏生 氏（筑波大学名誉教授、文部科学省科学技術・学術政策研究所）

### ○永年会員

山崎 久道 氏（前 情報科学技術協会会長）

田村 紀光 氏（元 情報科学技術協会事務局長）

## 著作権委員会

### ① 委員会開催状況

- 2022年度第1回委員会 9月14日（金）19:00～21:00 オンライン開催
- 2022年度第2回委員会 10月11日（火）15:30～17:00 オンライン開催

### ② 活動状況（理事会に報告すべき事項）

- 形式的な委員会は上記の2回であるが、適宜のメールまたはオンラインでのスモールミーティングを開始して下記の課題を主に対応した。

- 「著作権法施行令の一部を改正する政令(案)」及び「著作権法施行規則の一部を改正する省令(案)」に関する意見募集の実施について」のパブリックコメントを INFOSTA として提出。専門図書館協議会著作権委員会とも意見をすり合わせる。
- 専門図書館協議会著作権委員会から依頼のあった「図書館等公衆送信補償金管理協会 (SARLIB)から図書館団体の意見徴収」に関して、INFOSTA の立場としての意見をまとめて、同委員会に提出した。
- 上記と関連して 12 月に予定していた著作権法改正のその後の動きについてフォローアップする講演会は、早々に意見募集が開始されたので、中止した。
- 文化審議会著作権分科会基本政策小委員会「簡素で一元的な権利処理」の在り方に関する意見募集に関して INFOSTA の立場からパブリックコメントを作成して文化庁に提出した。
- 会誌経営委員会から連絡のあった会誌への著作権連載記事に関して、企業における著作物の利用についての課題について意見を求められたため、著作権委員会および専門図書館協議会著作権委員会にて検討された課題を会誌経営委員会にフィードバックした。

## 標準化委員会

1) 標準化委員会開催：1 回 (Zoom) 2022-05-26

2) 国際標準化 ISO/TC37 および TC46 の国内審議  
ISO/TC37, ISO/TC46 の国内審議団体の事務局としての活動

3) JIS 策定, 見直し

- JIS X0306 ISSN の改正原案作成
- JIS X30300 記録管理－基本概念及び用語,  
JIS X30301 記録のマネジメントシステム－要求事項 の原案作成
- JIS X0309 ISMN 原案作成への協力

## パテントドキュメンテーション委員会

昨年度から引き続いて、2023 年 7 月号の知財特集発行に向け取り組んでいる。当該号発行後は、次年度 2024 年 7 月の知財特集に向けてテーマ及び執筆者の選定・検討を行う予定である。次特集号に向けての継続的な情報収集及び情報交換が有効と考えている。



## 研究会活動

日本オンライン情報検索ユーザ会 (OUG: Online Users Group)

ライフサイエンス分科会

(主査：廣谷映子氏、第 392～400 回；計 9 回開催、開催月と内容および参加人数)

- 4 月 INFOPRO2022 テーマ検討のディスカッション 12 名
- 5 月 INFOPRO2022 ディスカッションと発表準備 8 名
- 6 月 INFOPRO2022 に向けたディスカッションと発表資料検討 10 名
- 7 月 第 19 回情報プロフェッショナルシンポジウム INFOPRO2022 ver.  
医中誌 Web バージョンアップ～「ゆるふわ検索」の検証～ 166 名
- 9 月 国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) の NBDC 事業について 22 名
- 10 月 Citeline データベースサービス 12 名
- 12 月 ①検索演題：2022 年度検索技術者検定 2 級問題を解く ②情報交換 10 名
- 1 月 ①医中誌 Web のゆるふわ検索について ②医学用語シソーラス改訂の紹介③他 15 名
- 2 月 EBSCO「DynaMed」 10 名

専門部会 (SIG: Special Interest Groups)

技術ジャーナル部会

(会員企業：6 社。コアパーソン：持ち回り。計 4 回開催)

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

### 【議題】

#### 1. 各社現状発表

- ・5 月度：
  - 1. 技報のポジショニングについて
  - 2. 社内向け技報サイトについて
- ・8 月度：
  - 1. 技報の著作権管理（転載）について
  - 2. 技報事務局要員の確保・育成方法
- ・11 月度：
  - 1. 技報の多言語化発信を考えよう
  - 2. 技報の価値を考えよう
- ・2 月度：
  - 1. 技報のプロモーションについて考えよう
  - 2. 世の中の流れや最新技術へのアンテナの高め方を考えよう

#### 2. 技術ジャーナル部会への新メンバー勧誘についての検討

5 月度、8 月度、11 月度

## パテントドキュメンテーション部会

(会員：4名 コアパーソン：桐山 勉 毎月開催)

1. INFOPRO 2022 においては、口頭発表として、「台風の制御技術に関する特許分析研究, Open Science & Citizen Science 時代においてお役に立てるか？」の1件の発表を行った。
2. Citizen Science 時代の市民研究会として、特許出願「海流発電用三胴船」(特願 2022-77318)を1件実施すると共に、早期審査請求も実施し、特許 7199585 を 2022 年 12 月 22 日に特許権を取得した。更に、国際特許 PCT 出願(PCT/JP2023/009755)も実施した。
3. 外部知的財産団体への協力；INFOSTA-PD 委員会に実行委員会 1 名参加派遣。会誌報の科学と技術 72(7)に、「特集「**特許調査を取り巻く技術の進展**」の編集にあたって」を企画参加。
4. メンバー間のトピックス情報交換
  - 米国 PIUG2022、EMW2022、EPOPIC2022、CPAC2022 などの関連詳細情報をメンバー間で交換。その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものの相互紹介など。
5. プロバイダーデモ勉強会への参加と実施
  - アイ・ピー・ファイン社の知財 AI 活用研究会(第 5 期)にメンバーの一人が顧問 Adviser として参加した。
  - Clarivate Analytics 社の Derwent Innovation を試行させて貰い、「台風の制御技術に関する特許分析研究, Open Science & Citizen Science 時代においてお役に立てるか？」を行った。
6. 新型コロナウイルスの影響で、テレワークスになってからは、2021 年 4 月度から 2023 年 3 月度まで、全ての PDG 部会をオンライン Zoom 会議で実施した。

## 分類／シソーラス／Indexing 部会

回	開催日	テーマ	会場
1	2022/5/20	ISO25964-1 の定期見直しについての問題提起と討論	Zoom
2	2022/7/15	日経シソーラス検討下相談、暑気払い	Zoom
3	2022/9/16	ISO 規格での関係の定義 ISO 5127、ISO 25964-1 などに規定されている定義の検討	Zoom

4	2022/11/18	概念間の関係について Anita Nuopponen 氏の論考をめぐって (1)	Zoom
5	2023/1/20	書籍”Index, a history of a ”の紹介と討論	Zoom
6	2023/3/17	予算残の使用方法相談 概念間の関係について Anita Nuopponen 氏の論考をめぐって (2)	Zoom

- 日経シソーラスの評価検討について、その方法について、予備的検討を行った。
- その際、参考となる評価基準として、まず ISO の標準について検討した。
- 次に、ターミノロジーの分野で、詳細な概念関係の分析を行っている Anita Nuopponen 氏の論考に基づいて、議論を展開した。
- その間、インデックスについての、興味深い書籍について、紹介・討論した。

### ターミノロジー部会

(部会員：4名 コアパーソン：長田孝治氏 年6回開催)

設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催であるが、2022年度はコロナウィルスの影響もあって ISO 10241-2:2012 の翻訳版の出版に向けての、翻訳、解説の作成に注力した。出版元の規格協会との調整を開始した。

### 3i 研究会 (Information, Infrastructure, Innovation 研究会)

#### ① 研究会開催報告：

第9期の活動は、2022年6月から2023年5月まで、毎月第3木曜日 (18:30-20:30) にすべてオンラインで行った。(2022年4月、5月は第8期、6月から2023年3月までは第9期の活動。全12回開催)

#### ② 活動状況

- 第8期に引き続き、第9期も同じグループサポーターの協力を得て、研究会活動を行った。
- サポーターにはグループの活動をサポートするだけでなく、毎回スキルアップのためにミニ講義も開催していただき、有意義な活動をすることができた。
- 参加費はサポート作業の労力を考えて前期よりも値上げをし、会員を優遇した設定とした (会員：10,000円、非会員：12,000円)

- 参加者は4名（うち1名業務都合で途中退会）で、各グループ2名で2グループで活動した。
- データベースは昨年に使わせていただいたJDreamIII（文献検索データベース：(株) ジーサーチ）、パテントマップEXZ（特許解析ソフト：インパテック(株)）に加え、CKS Web(特許検索システム：中央光学出版(株))を無料で貸与していただき、活用することができた。
- 研究成果は、プロフェッショナルシンポジウムでの発表予定である。